

地域支援型の国際的ワークショップの地域運営計画と実践：「健康的老化への道」夏休みの国際的集中講座を例に上げます

国立成功大学

王羿霖（アシスタント）、莊芙（博士課程在籍）、陳世明（副教授）

一、 前述

超高齢社会を迎える中、大学の力を活用し、高齢者がコミュニティで健康的に老化を進めるための行動プランを発展させることが、国立成功大学のUSR計画「寄り添う2026：共生・共益・文化再創」の目標の一つです。この計画の一環として、2024年夏季国際集中講座「健康的老化への道—個人・地域・環境資源の視点から」が実施されます。本講座は、日本の千葉大学と本学が共同で実施し、実践の場として台南市北区の仁愛里と中西区の温陵コミュニティを焦点に展開されます。今回の国際的集中講座では、授業を担当する教員は成功大学高齢学研究所の劉立凡教授、クリエイティブ産業研究所の楊佳翰准教授が参加します。また、カリキュラムの計画には、日本千葉大学国際教養学部の鈴木雅之教授と成功大学建築学科の陳世明准教授も加わっています。更に、講座と実践場との連携や、学生が地域で学ぶプロセスについては、成功大学建築学科の陳世明准教授が中心となり、温陵コミュニティを運営する学務処心理カウンセリング部門の鄭淑惠助理教授、仁愛里を担当する体育健康・レジャー研究所の林麗娟教授及び建築学科の楊詩弘准教授が地域計画に参加しています。これら4名の教員が実践場の業務計画に携わるほか、期末発表や特別講義に参加する多数の教員を含め、合計11名の教員が講座に関与します。

当授業の地元チームとして、台日学生の提案が表にしか残らないために、たったの9日に学生たちに場域の脈絡を理解させ、更に地方に有意義な行動プランを提出させることが、我々寄り添うチームが深く考えていることであり、当文で皆さんに伝えたい内容となります。

二、地域支援型の国際的ワークショップ

USR 計画が促進している場域支持型授業は、学生の学習がリアルな環境に存在することを希望しており、場域ないの人、事、物の支持を通して、学生の知識に対する学習と応用を強めます。更に経費と人為的な支持の元、リアル環境で進める知識の実践には、「知行合一」の目的を果たしたいと考えています。その同時に、既に完成させたプランと実践成果に対して、使用者応用後には観察及び評価を行い、また別の授業で実践プランの修正を行い、または新たなプランを建てることで、次の段階の実践プログラムを進めます。USR の地域支援プログラムの主な特徴のひとつは、大学生の学習と地域住民のニーズや実践のバランスを取ることを目的としています。

そして地域支援型の国際的ワークショップはこのような概念の元、外国の教員と生徒に台湾コミュニティのリアルな環境の背後にある脈絡を理解させ、ステークホルダーとやり取りをして自身の考え方を述べ、コミュニティに有益なプランを提出することに着眼します。国内外大学の学生や教員の学びを重視する多くの国際的ワークショップと異なり、当地域支援型国際的ワークショップは「地域の地域に役立つソリューションの提案」と「国内外大学の学生の学び」の双方を考慮し、この機会に「USR 地域支援型国際的ワークショップ」の特徴と意義を示します。

上記の概念の元、寄り添うチームは国際的ワークショップを計画している際に、執行プログラムを3つの段階に分けて処理しています。それは、ワークショップ前のティーチングメカニズムと地域実施メカニズムの構築と運用、ワークショップ中のコミュニティ訪問や1日同行学習などの活動の実施、そしてワークショップ後の内容振り返りと提案されたコミュニティプログラム実施の可能性を検討します。

そして具体的な操作面において、コミュニティ交流の深さによって、「コミュニティ訪問と観察」、「ステークホルダーとのやり取り(一回から数回まで)」、「コミュニティのハード・ソフトウェア製造の実践経験学習」、「ワークショップ後の振り返りとプログラム実践の可能性」の4つに分けら

れます。事実上、授業内で順番にこの4レベルの計画と実践を完成させるのは、学生の学習と授業の経費及び教育人材においても決して容易いことではございません。しかし、一回キリの訪問やステークホルダーとのやり取りに留まれば、学生たちはリアル環境の脈絡に触れることが難しく、長期にわたっても地域に対してポジティブな効果を与えることもできません。そのため、いかに両者のバランスを取るかが、USR 地域支援型の国際的ワークショップが主に考えるべき方向です。そして当計画では上記の問題を解決すべく、以下の方法を採用します：

- 1.学際的/学期を跨る地域経営
- 2.地域ステークホルダーが積極的に参加する教育モード
- 3.地域教員/地域研究生を核心とした地域の定常経営

三、「地域支援型の国際的ワークショップ」の運営メカニズムを応援します

下記は前の段落で提起した三つの方法について説明を行います。

1.学際的/学期を跨る地域経営

前述の通り、単一の授業では地域への深い影響を与えることは困難ですが、同じ講座を複数学期にわたって継続的に運営したり、2 から 3 つの講座を 1 年間通して連携して実施したりすることで、特定の課題を持続的に深掘りすることが可能となります。その結果、地域における社会資本の蓄積が進み、最終的には質的な変化をもたらすことが期待されます。今回の「健康的老化への道」国際講座は、このような考えのもと構築されており、以下の 6 つの長期的な運営を基盤としています：共通教育センターの「家族関係」講座、建築学科の「建築と環境設計（一）」、および「コミュニティ創生の理論と実践」、「参加型環境計画」、「建築学科サービスラーニング（三）」、さらに「環境計画プログラムと実践」です。

第 2 期の計画から、前述の 6 つの授業は約 10 個の都市及び地方コミュニティに段階的に投入され、地域運営が進められています。その中で北区仁愛

里では、戦鼓運動、都市農園、親和性フェンスといったテーマを中心に参加型学習が行われています。また、中西区温陵コミュニティでは、シルバーポッドキャスト、旧市街地における高齢者の自主的な共同生活、都市と農村の間の食事と農作に関するテーマで参加型学習が展開されています。今回の国際的ワークショップはこれらの基盤を踏まえ、学生たちが地域の住民と共に「1日共学体験」を行い、高齢者の日常生活を理解するとともに、大学の社会的責任（USR）計画が地域の高齢者の生活や交流にどのような影響を与えているかを学ぶ機会を提供します。

2. 地域ステークホルダーが積極的に参加する教育モード

台日学生がコミュニティのリアル環境の脈絡に入り込むことを可能にするため、基本的な訪問やガイドツアーに加え、今回の講座では「1日伴学体験」や高齢者への深層インタビューなどの活動が組み込まれています。この中で、「1日伴学」とは、地域の高齢者を師匠とし、学生がその1日の生活動線に従い、仁愛里や温陵コミュニティにおける高齢者の生活を間近で体験することで、健康的な老化促進のためのアプローチを見出すことを目的としています。また、講座の最終報告会では、地域のステークホルダーを招待し、台日学生が地域高齢者の生活に関する考察を共有し、フィードバックを受ける機会を設けています。この双方向の交流の中で、成功大学の学生は重要な対話の架け橋を務め、日方学生と地域高齢者間のコミュニケーションを円滑にサポートしています。更に、台日学生に地域実践の具体的な事例を学ぶ機会を提供するため、他の2つの地域協力パートナーである「Oh Old!」と「YMCA 徳輝苑」を訪問し観察を行いました。「Oh Old!」では青少年と高齢者が共に生活する体験を通じた学びを提供し、「YMCA 徳輝苑」では施設とその周辺地域におけるコミュニティ共生の課題を学ぶケーススタディを実施しました。

3. 地域教員/地域研究生を核心とした地域の定常経営

前述の授業計画は、一朝一夕で完成できるものではありません。フィールドパートナーとの長期的な信頼関係がなければ、これほど緊密な講座活動

を企画することは難しいでしょう。本計画におけるフィールド運営では、専任のフィールド担当教員を配置するだけでなく、教員を補佐してフィールドを運営するフィールドアシスタントや、そのフィールドで実践型研究を行う駐在研究生も設けています。フィールドアシスタントと駐在研究生は講座とフィールドの連携をサポートし、学部生や新入学の大学院生がフィールドの状況を理解できるよう導きます。この仕組みの下、国内外の学生が講座終了後に離れても、講座の成果はフィールドアシスタントや駐在研究生によって整理され、新たな講座の基盤や自身の実践型研究の資料として活用されます。更に、フィールド担当教員とフィールドアシスタントの存在により、フィールドと本計画との信頼関係が教員を中心に構築され、講座終了後でも計画とフィールドとの関係が断たれることはありません。

四、結論－地域密着型国際ワークショップの持続的発展

大学社会責任（USR）の核心理念は「地域連携」と「人材育成」です。第1期から現在まで、成功大学の寄り添うチームは台南の多くのフィールドと緊密な協力関係を築いてきました。互いに信頼し合い、理念を支え合う中で、わずか9日間で国際ワークショップを成功させることができました。地域訪問、1日伴学、計画事例の学習、更には学生がフィールドの高齢者に自分たちの提案を発表する活動など、いずれも簡単なことではありません。今後も成功大学の付き添うチームは新たな場域の開発に努め、既存のパートナーコミュニティの力を更に深化させ、台南の高齢者に適した健康老化の生活スタイルを持続的に発展させていきます。今回の国際ワークショップ終了後も動的な発展を続けます。今年9月から始まる新学期では、複数の講座が「健康的老化への道」で提案された実践可能性の検討を引き続き行います。付き添うチームは、「国際的な教育交流」と「地域密着型のフィールド実践学習」を通じて、地域での実践経験を国際社会に発信し、国際的なパートナーと切磋琢磨しながら、「地域とグローバルを繋ぐポジティブな循環発展」を推進していくことを目指します。

参考文献：

陳世明（2024年8月9日）。「USR 場域実践型人材育成と場域支援型国際ワークショップの計画と実践」。高齢社会国際フォーラム－高齢社会における持続可能で包摂的なコミュニティデザイン：課題、革新案および未来の人材。台南市、国立成功大学崇華ホール。



図1 仁愛里の年長者は台日学生に仁愛里のコミュニティにある農園をシェアし、台湾コミュニティの活動内容を見せました。



図 2 日本学生は台湾学生の協力を通して、年長者と交流や会話を深め、台湾の高齢生活に対する理解と認識を深めます。



図 3 台日学生と溫陵コミュニティの年長者と一緒に台南旧城区の生活環境を体験します。